



インフルエンザ予防接種 説明書



1 インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気で、高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が現れます。併せて、普通のかぜと同じようにのどの痛み、咳、鼻水等の症状もみられます。普通のかぜに比べ全身症状が強く、気管支炎や肺炎等を合併し、重症化することが多いのが特徴です。

2 インフルエンザの予防法

人ごみを避け、日頃から十分な栄養や休息を取ることが大切です。感染の広がりには空気の乾燥が関連します。室内では加湿器等で加湿しましょう。外出時のマスク着用や帰宅時のうがい、手洗いを併せておすすめします。

3 予防接種の有効性

高齢者の発病防止、特に重症化防止に有効であることが確認されています。接種を受けてから抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5か月間とされています。より効率的に有効性を高めるには、毎年流行する前の12月中旬までに接種を済ませておくことが望ましいとされています。

4 予防接種の副反応

接種部位の赤み、腫れ、痛みが主な副反応です。また、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常2～3日のうちに治ります。

非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

5 接種を受ける前に

(1) 一般的注意

この説明を読んで、必要性や副反応について、分からないことがあれば、担当医や看護師に質問しましょう。十分に納得してから接種を受けてください。予診票は接種をする医師にとって、大切な情報です。責任を持って記入し、現在の健康状態を正しく伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない人

① 明らかに熱のある人（通常、体温が37.5度以上ある人）

② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

③ ワクチンの成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある人

通常、接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④ その他、医師が不適当な状態と判断した人

(3) 接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

① 心臓病、腎臓病、肝臓病やその他慢性の病気で治療を受けている人

② 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身に発疹等のアレルギーを疑う症状があらわれたことがある人

③ 今までにけいれんを起こしたことがある人

④ 免疫不全と診断されている人、又は先天性免疫不全症の家族がいる人

⑤ 間質性肺炎、気管支ぜん息と診断されている人

⑥ 予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

6 受けた後の一般的注意事項

(1) 予防接種を受けた後の30分間は、急な副反応が起きることがあります。医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

(2) 副反応の多くは24時間以内に起こるので、体調に注意しましょう。

(3) 入浴はかまいませんが、注射部分を強くこすることはやめましょう。

(4) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

7 予防接種健康被害救済制度

予防接種では、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。

極めてまれではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

医療機関で治療を受けた場合や障害が残ってしまった場合に、予防接種法に基づく救済（医療費・医療手当・障害年金の給付など）が受けられる場合があります。ご不明な点は以下へお問い合わせください。

《お問い合わせ先》

瀬戸市健康課 電話 85-5511 Fax 85-5120

尾張旭市健康課 電話 55-6800 Fax 53-9488